

論壇

人と地域を結ぶ返礼品

先日、ふるさと納税の制度を利用して、四国のイチゴと野菜を送ってもらった。家内が子供の頃を過ごした四国で納税をしたいというので、インターネットのサイトを見ながら、返礼品を選んだ。返礼品で納税地を選ぶのは如何なのかという意見もあるようだが、あまりに多様な返礼品があるので、おもしろいものを提供する市町村を選ぶことになった。送られてきたのはイチゴと農業不使用の野菜だった。どちらも素晴らしい味だった。ふるさと納税の制度がなければ、こうした食材

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

に出合うことはなかっただろう。これまで名前を聞いたこともなかったような小さな村のことを家内と話題にしながら、味を楽しんだ。

当然、これで終わりにする気はない。来年のイチゴのシーズンには、同じイチゴをもう一度送ってもらえるように、同じところにふ

ふるさと納税制度の意義

るさと納税したいと考えている。返礼品を探してのふるさと納税だと一度限りの関係のようになりがちだが、おいしい食材をまた食べたいというところで、特定の産地の生産者とのつながりができることはうれしいことだ。そのようにして人と地域の結びつきを強め

ることも、ふるさと納税の制度の目的であるはずだ。

スーパーで食材を購入するときには、そんなこだわりをする余地は少ない。店を選ぶことはできるかもしれないが、店に並べる商品を客であるわれわれが選べるわけではないからだ。インターネットと宅配便の発達で、消費者と産地

の生産者が直接つながることが可能になっていく。ふるさと納税の制度も、地域への寄付の気持ちという本来の目的がもつとも重要であるとしても、それに加えて地域の生産者と消費者がつながる手段となることの意義も大きいと思

もつとも、友人からいやな話を聞いた。この友人は、ふるさと納税の制度でミカンを返礼品として頼んだ。ところがやってきたのは一部腐りかけているようなミカンだったという。詳しいことは分からないが、市場に出せないような品物をふるさと納税の返礼品として出しているのではないかと、この友人は怒っていた。この真偽はさておき、返礼品の内容が結果的にその市町村のイメージを悪くすることもあるということだ。

全国の産品競争の場

返礼品の仕組みを入れたことは、ふるさと納税の制度を広めるのに大いに役立っている。過剰な返礼品については批判もあり自粛がすすんでいるようだが、納税

額の3割以下で地元の産品を返礼品にするという仕組みは、なかなかよくできていると思う。重要なことは、それぞれの市町村が返礼品の制度を最大限に活用して自分たちの産品をアピールすることだ。

ところでイチゴやミカンといえば、なんといっても静岡県だろう。ちなみに私も静岡市へのふるさと納税をして、イチゴが送られてくることになっている。それを楽しみにしているのだが、四国のイチゴの方がおいしかったなどと家内に言われることがないか、心配もしている。ふるさと納税の返礼品は、全国の産品の競争の場でもある。静岡県の市町村には、ぜひ、他の産地に負けない品物を出してほしいと願っている。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。